

(令和7年度)
自己評価書

園番号	園名
718	学園南こども園

718学園南こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育・保育活動に関するもの	(1) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が共通理解し、具体的な取り組みに繋がる目標を設定する。 ・遊びや生活する子どもの姿を読み取り、分析を行う。 ・保護者アンケートを実施、学校評議委員の意見により教育活動の検証をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象に教育・保育アンケートを実施し、クラスだよりや懇談会、日々の送迎時など、常に保護者の意見を求めてきた。園評価アンケートでは、どの項目においても高評価を得ることができた。 ・職員間で見取りを行い、子どもの姿を多面的に捉えた。またその見取りから明日につながる援助や環境構成について考えた。 	a	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育目標や発達に応じた保育内容の検討を行い、環境構成や援助など職員間で話し合う機会をもちながら進めることができたか。 ・保護者からのアンケートより、肯定的な評価をいただいたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標を共通理解し、どのような教育活動をしていくのか、今年度の教育課程を確認しながら次年度に応じた計画を作成していく。 ・園の課題や問題については、全職員で協議し、検討していく
		② 教育・保育計画の作成					
		③ 教育課程/全体的な計画の編成					
		④ 教育・保育活動の評価					
	(2) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・「奈良市こども園カリキュラム」に基づいて自園の指導計画の見直しをする。 ・「子どもが主体的に活動する」と研究主題に定めて初年度の取り組みとして、教育・保育の質の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの指導計画を見直し、研修を進めた。 ・園内研修では、研究主題に添い、心が動いた瞬間を看取る。もっと意欲的に活動出来るような援助や環境について話し合い研究を深めた。 	a	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に応じた指導に努め、指導計画に取り組んでいるか。 ・「奈良市こども園カリキュラム」に添った保育内容になっているか ・日々の振り返りと全学年で、環境の見直しと振り返りを積み重ねることで幼児期の発達を促えられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の姿から、指導方法を検討していく。 ・個々の保育者が教材研究に努めると共に、互いの保育の振り返りの中で環境構成の工夫や援助の仕方について学びあえるようにする。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策をとった中で、子どもが感動でき、子どもの成長とつながり、保護者にも毎日の保育内容が理解していただけるものを計画する。 ・園内だけでなく、地域とつながりの持てるようなものにしていく。 ・計画性を持ち、多くの職員が行事に向かって協力していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な行事において、子ども達の遊びの延長上での行事として主体的に取り組んだ。 ・地域の方に作品展・生活発表会を通して、子どもの表現する姿や園の取り組みを知ってもらえる機会となった。 	a	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートや行事後の保護者の感想、地域の方々からの意見の中でも、行事について子ども達が主体的に取り組んでいる姿に評価を得た。 ・評議委員の方に、発表会や作品展など見ていただくことで、園の取り組みを知ってもらう機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・以前の行事の進め方を踏まえ、新しい行事の取り組み方を考えていく。子ども達にとって豊かな経験ができるようにする。 ・地域の方に、園の取り組みを知っていただき、広げていけるように広報活動を具体化し工夫をしていく。
		② 行事内容の精選					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの人権意識を高めるよう、日常生活の中で自分も友達大切に作る気持ちを育むような保育内容を考える ・子ども・職員共に人権意識を高める教材研究や正しいものの見方や考え方などを職員間でも話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で「人権擁護のためのセルフチェックリスト」「子供の権利を保育に生かそう」等で人権教育の重要性を認識する ・不適切保育について、小グループで話し合う機会を持ち、職員自身の人権意識を振り返ることができた 	b	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の関わりの中で、自分が大切にされている存在であるという気持ちから友達に対して優しくする気持ちが育っている。 ・職員間での思いやりや周りの環境に対しての気づき等はどうであったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の自尊感情や仲間意識を高めるための保育内容を検討し、継続していく ・職員の人権意識を高め、不適切保育につながらない取り組みを継続していく
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者チェックリストで自分の仕事を振り返る。 ・一人一人をよく観察し、その子の特性を探る ・保護者の状況を把握し、思いを受け止めていく。 ・状況を細かく把握し、適切な機会に連携していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に情報交換に努め、小さな問題でも、全職員の問題として捉え、共有し全体で取り組むようにした。 ・特性を捉えながら適切に相談につなぐことができた ・保護者に応じて個別的丁寧な対応をしてきた。 ・関係機関との連携の際に適切な情報を伝えられた。 	b	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要と思われる子どもに対して、保護者と信頼関係を築きながら、就学を見据えて相談等につないでいっている。 ・各関係機関への資料も具体的にまとめることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の思いに沿いながら共に子ども理解を深めていく。 ・日頃から子どもの様子を伝える工夫が必要である。 ・家庭訪問や個人懇談など、個別の対応の機会を適切に持つようにする。
		② 教育相談・こども理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	<ul style="list-style-type: none"> ・対処方針や指導計画が明確である ・日頃より実態把握・早期発見に努めている ・各学級の状況を園組織として共有できている ・保護者や地域と連携できている ・組織的に迅速に対応する体制が整備されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の関係、話し方、関わり方など日頃からの実態把握に努めるようにしている。 ・気になる姿、トラブルなどに気づいたときは、管理職に報告・連絡・相談するようにしている。会議などの時に全クラスに情報共有するようにしている 	b	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭支援推進保育士を中心に、人権・不適切保育について考えたり、セルフチェックシートを活用したり、グループ討議をするなどして、職員の意識向上に取り組むことができた。 ・クラスでトラブルがあったときは、それぞれの子どもの思いに寄り添いながら、気持ちを相手に伝え、相手の気持ちにも気づけるように丁寧に対応することを大切に保育をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に保育者自身の声かけ、関わり方、連携などについて振り返り、人権意識の向上、不適切保育の防止に努める。
					a		
					a		
					a		
	(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭支援推進保育士、クラス担任、特別支援コーディネーターと連携し、一人一人を観察し、課題を明らかにして、具体的な指導方法を共通理解して取り組む ・保護者と連携し、成長していく子どもの姿を共に見守り、集団の中で一人一人の力を発揮できるようにする。 ・関係機関との連携を密にして、子ども一人一人の理解に努める。 ・一人一人に応じた指導計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターや家庭支援推進保育教育士、担任で子どもの実態を共有し、連携をもった。 ・保護者との日々の関わりから信頼関係を深め、個人懇談や相談の機会を持ち、子どもの特性を保護者に伝えることができた。 ・就学を見据え、各年齢に応じた支援の方法で関わり、個別の指導計画や日々の観察記録を大切にしている。 	a	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の特性・課題について職員が共通理解の下、指導にあたるよう務めた ・支援を必要とする子どもが多く、一人一人に応じた支援ができるようにしてきたが、保護者理解には課題が残っているのが現状である 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の課題を見極め、援助のあり方を工夫できる力量を身につけるため、研修等に参加し、自己研鑽に務める。 ・子どもの課題について、丁寧に話し合い、保護者に理解してもらうようにする ・すべての子どもに対して、きめ細かい教育・保育ができるよう努力を続けていきたい
		② 個々に応じた特別支援教育の内容					
③ 指導方法の工夫改善							
④ 家庭との連携							
⑤ 関係機関との連携							

(令和7年度)
自己評価書

園番号	園名
718	学園南こども園

718学園南こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の自己能力を発揮しながら、教育や園運営に取り組めるように働きかけた。 ・毎朝の朝礼において子どもや職員の健康状態を確認し、各クラスの報告・連絡・相談を密にしていた。 ・職員相互のコミュニケーションを密にし、協力し合っ て、保育・教育を進めていく。 ・業務に優先順位をつけ、職員間で助け合うように声掛けをし、時間外業務にならないように努めた。 ・保護者アンケート・自己評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・園運営方針に基づき、またこども園としての理解を全職員が行い、保育・教育の方向性を確認することが出来た。 ・必要に応じて個々の面談を実施し、職場の人間関係の構築に努めた。 ・時差勤務と職員数が多いため、連絡が届きにくいことがあるので、チェック欄を作る等して共通理解できるように工夫した。 ・業務に優先順位をつけ、職員間で助け合うように声掛けをし、時間外業務にならないように努めた。減少できた。 	b	<ul style="list-style-type: none"> ・職員がそれぞれの立場で、力を発揮し園教育、保育目標を推進することができた。 ・職員が子どもの実態を把握し、園教育目標、研究主題を意識し、日々の保育にあたっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の職員が日々忙しい中でも保育にやりがいを感じ、楽しめるようにサポートしていく。 ・各職員がワークライフバランスが取れるよう、業務の見直しや、工夫を行う
		② 園経営目標・方針			a		
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識			a		
		④ 園務分掌等の連携			b		
		⑤ 会議の運営と位置づけ			b		
		⑥ 会議の結果			a		
		⑦ 職場の人間関係			a		
		⑧ 園評価の実施			a		
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加できる体制を作っていく、その後の報告ができ高められる機会を作っていく。 ・研究主題について、すすめていける体制づくりをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラスで園内公開保育を実施し、子ども達の意欲につながる姿、環境について、関わり援助についてなど、視点を決めて観察し、職員の意欲につなげ保育にいかせるようにした。 ・他園の公開保育や研修に積極的に参加し、学んだことを報告・実践したことで、各保育者の力量を高めることに繋がった。 ・研修の報告をするにあたり、研修内容をまとめたり自らの保育の振り返りができていた 	a	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加できる体制を作っていく、その後の報告ができ高められる機会を作っていく。 ・園内公開保育を実施することで、職員の保育の振り返りにつながり、実践につながる研修となった 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が課題意識を持ち、保育実践や指導力を高められるように研修の場を保証していく ・園外研修の報告、伝達の時間を確保し、全職員が学びを共有できるように、工夫していく
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施			a		
③ 園外の研修への積極的参加		a					
④ 園外研修内容の共有		b					
⑤ 研修成果の普及		a					
(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の計画を立案し、様々な場面を想定して実施する。 ・危機管理マニュアルを再確認し、命を守る安全対策を十分に行う ・安全指導の工夫改善の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、避難訓練を実施し、防災意識を高めた ・防災訓練ごとの体制の確認や色々な場面を想定し、起こることへの対応の確認をした。 ・繰り返しすることで、防災ずきんの使用にも慣れてきた。 ・不審者対策のため、保護者への保護者証を身につける事の徹底を促した。 	a	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を積み重ねることで、職員・子ども達の防災意識が高まってきている。 ・子ども達に自身の身を守る為に必要な安全・自己管理について分かりやすく知らせるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の危機管理に対する共通理解と意識の向上に努める。 ・様々な災害についての、避難方法や職員の位置、連絡方法等を繰り返し確認することで意識を高める。職員の臨機応変に対応できる力を高める 	
	② 防災計画の立案			a			
	③ 危機管理体制の整備			b			
	④ 安全指導の工夫改善			a			
	⑤ 家庭との連携			b			
	⑥ 関係機関との連携			a			
(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な感染症の知識や実態の把握をし、消毒、手洗い、換気を徹底する。 ・感染症対策への声掛けを定期的に伝え、意識を高く持つようにする。 ・基本的な生活習慣の確立を目指し、子どもの健康管理に努める。 ・アレルギー対応の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な感染症の知識や対応の仕方の把握をし、消毒、手洗い、換気、室温・湿度の調節を徹底した。 ・クラスだよりや推進だより等で基本的な生活習慣の自立を促した。 ・子どもの体の健康状態を把握し、変化があれば、適切な対応を行った。 	a	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察表を基に、毎日の子ども達の健康状態を把握しているか。 ・感染症対策を自ら意識を持ち行っていたか。 ・マニュアルの周知と点検を行い健全な身体の育成に向け配慮できているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理マニュアルに基づいた管理と安全な食の提供を行う。 ・感染症対策、食事の衛生面、アレルギー対応について危機管理意識をもって適正に行う。 	
	② 心のケアや健康相談の体制の整備			b			
	③ 健康観察、健康管理能力の育成			a			
	④ 関係機関との連携			b			
	⑤ 昼食（給食等）の衛生管理			a			
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭環境整備・読み聞かせ・野菜栽培・運動あそび・運動会・防災教育等、様々な事業を通して、地域の方と交流することができた ・地域の会議や行事に参加したり、園だよりを地域の方に届けたりする中で、こども園のことを広報することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に参加して頂く機会は少なかったが、ホームページや保護者アンケート等を通して、取り組みを知って頂けた。 ・評議委員会を実施し、園児の様子や園の取り組みに対して良い評価をいただけた。 	a	<ul style="list-style-type: none"> ・参加して頂く機会は少なかったが、ホームページや保護者アンケート等を通して、取り組みを知って頂けた。 ・評議委員会を実施し、園児の様子や園の取り組みに対して良い評価をいただけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々とのふれあいの機会を実施し、その機会に感想や活動に対する助言をもとめたりして、第三者の意見を職員会議の内容に盛り込み、地域との連携をより良いものとしていく。 ・広報活動を具体化していく。 	
	② 園(保育)公開			b			
	③ 小学校との接続・連携			b			
	④ こ幼保との連携			b			
	⑤ P T A・保護者会の活性化			a			
	⑥ 地域教育協議会との連携						
	⑦ 学校関係者評価の実施						
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・園内を美しくするよう清掃活動や環境整備に努める。 ・危機管理意識を持って、消毒等や安全点検を行い子ども達が安全安心して過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室や玩具の消毒等の衛生管理を行う。 ・定期的に遊具や施設の安全確認を行い、危険箇所を整備したり、子どもにとって安全な環境を整える。 	a	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室や玩具の消毒等の衛生管理を行う。 ・定期的に遊具や施設の安全確認を行い、危険箇所を整備したり、子どもにとって安全な環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔に保たれているかに気付いていく。 ・常に安全に遊べる環境であるために職員がリスク意識を持って点検を行う 	
	② 施設設備の有効利用			a			
	③ 施設設備の管理			a			
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の漏洩、記録媒体の紛失がおこらないように、細心の注意を払うようにする。 ・各書類等の管理を徹底する。 ・写真の撮影の取り扱いに気をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公文書、個人情報の取り扱いについては、全職員が適切に処理できていたか。 ・子どものプライバシーが守られているか。 	a	<ul style="list-style-type: none"> ・公文書、個人情報の取り扱いについては、全職員が適切に処理できていたか。 ・子どものプライバシーが守られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理方法や管理体制を職員全体で共通理解し、危機管理意識を高める。 	
	② 公文書の作成			a			
	③ 個人情報の管理・保護			a			
	④ 情報の収集			a			
	⑤ 電子媒体の管理			a			